

- 【日 時】 平成 26 年 2 月 17 日
【訪問先】 富岡小学校 大橋広行校長
【概 要】 児童数 547 名 19 学級 特別支援 2 学級
教員 28 名 職員 3 名

【視察報告】

1. 校長先生のモットー

『ともに みとめあい おしえあい かがやこう』
それぞれの児童がそれぞれの良さを発揮して富岡小学校
というひとつのチームを素晴らしいチームにしたい。

2. 英語・国際教育の取り組み

現在ちょうど外国籍の児童が 5 名いる。国際教室を開講
しているが、日本国籍・二重国籍の児童で日本語が不自
由な児童もいる。友達と積極的にかかわれる子供は日本
語の吸収スピードも速い。国際ラウンジからも通訳ボランティアをお願いしている。

3. 地域のボランティアの協力

核家族化で両親以外の大人とのふれあいが少なくなっている
ので、かかわる機会を頻繁に作っている。
民生委員を中心に近隣のお年寄りに年に一回一緒に遊び、
給食を食べるイベントを実施している。
総合学習で地域の歴史を学び発表する会を昨年からはじめ、
地域の人にも参加してもらっている。
地域の大人がたくさん学校を訪れることは良い。学校ならでは
のかかわり方を考えている。

4. 地域との防災の取り組み

毎年 10 月の地域防災拠点の訓練には教師・生徒も参加している。
9 月の学校の防災訓練には地域の防災担当者に参加してもらっている。

5. 道徳教育や郷土愛を育む取り組み

道徳心や公共心を育む方法論は確立していない。評価方法も困難で、
教科化には疑問もある。

問題解決能力とその能力を活用する力を養うことをアクションプランとして目標にしている。

郷土資料室があり、昭和以前の写真資料の展示と、近隣の名家から寄付してもらった民具などがある。

6. 体力強化や部活動の取り組み

季節ごとに長縄とびやマラソンに取り組んでいる。

毎週火曜日の昼休みは掃除をしない日にして外遊びの日としている。

7. 学校組織の強化・人材育成

若い先生が増えていて、彼らを育成する世代が足りない。

力のある教師が減っていると感じる。

8. その他

150 年近い歴史を持つ学校なので、当たり前のように地域の人たちが学校にかかわってくれている。

PTA の引率による集団登校、登校時・下校時の学校の見回りを続けたことで、不審者情報が減った。

【所 感】

大橋校長先生は、富岡小学校に赴任して四年目。ベテランの校長
先生で、地域の人たちからの信頼も篤いように感じた。

明治期の避暑地から、戦前は軍需工場や海軍の基地、戦後は京急
の富岡地区開発、並木地区の埋め立てと、歴史に翻弄され続けた
富岡小学校なだけに、地域と小学校の絆の深さを強く感じた。

